

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1・2ユニット)

事業所番号	0290100056		
法人名	有限会社 サン・シヨウ		
事業所名	サングループホーム横内		
所在地	青森市大字横内字若草13-2		
自己評価作成日	平成23年10月14日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①事業者専任の薬剤師による服薬管理、相談 ②広大な畑で野菜を育て、収穫を喜ぶ場がある ③天然温泉を療養泉として活用 ④天然木をふんだんに使用し、心地の良い空間 ⑤AED設置 ⑥多方面の協力体制の充実 ⑦地域包括支援センターとの独自の協力体制あり ⑧他グループホーム、町会、消防団等との協力体制

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年11月26日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは解放的で清潔感のある2ユニットで構成され、ドアで仕切られているが各ユニットの職員が互いに協力しながらケアに取り組み、利用者間でも日常的に行事等で馴染みの関係が築かれている。  
代表者は調剤薬局を立ち上げ、市内外にある同業局グループのネットワークの他、栄養士、医療機関等、多様の業種の方達とも連携を図りながら、ホームの運営に力を注いでいる。また、管理者、職員は開設からのメンバーであり、職員の異動はなく、利用者の安心に繋がっている。  
リビングにはリハビリ用の機械を設置しており、職員の見守りの中、運動不足の解消に努め、広い庭園の散歩道は地域の方にも開放し、「明るく、仲よく、楽しく」の理念を日々実践に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を共有し、毎日の生活の中に反映させていけるよう、お互いに声をかけ合いながら、協力している。	「明るく、仲良く、楽しく」をモットーに、地域とのつながりを大切にしながら、笑顔あふれる生活を送れるようホーム独自の理念を作成している。職員会議等で、地域と共に利用者や職員が、どれだけ一緒に生活出来るかを話し合い、日常的に地域住民と相互関係を築きながら、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の大学とも協力をし、地域の中高生を対象にした介護体験授業等のお手伝いをしている。	町内会に加入して消防訓練や盆踊りに参加している他、地域包括支援センターや他グループホームと合同で歌謡ショーを開催し、地域住民も参加する等、積極的に交流を図っている。また、ホームを地域に開放しており、庭園には地域住民が気軽に散歩や見学に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象にした歌謡ショーにおいて、薬相談ブースを設け、専門的な知識を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果、町内において自防捜という組織ができ、町内全参加のもと、炊き出しや防災訓練の開催をすることができた。	運営推進会議の開催の際は電話で確認をとり、町内会長や消防団員、地域包括支援センター職員、利用者等のメンバーで実施している。会議では町内の情報収集やホームの行事の取り組み等について意見交換し、出された意見を運営に活かしている。また、自己評価及び外部評価結果を説明し、「サービス評価の実施と活用状況」については全ての項目ではないが、「目標達成計画」に合わせて報告・説明をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価・外部評価結果等について報告している他、必要に応じて職員が市役所に出向き、相談・連携等を図っている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に毎回出席し、市にはホームのパンフレットの配布や「自己評価及び外部評価票」「目標達成計画」を提出している。また、書類を作成する上で不明な点やホーム内のハード面について相談している他、ホームの実態を報告する等して日常的に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について職員間の研修を通じて、演習したり、予防策について話し合いの機会を設けている。</p>	<p>身体拘束防止に関してのマニュアルを整備し、勉強会を行い、施錠を含めて身体拘束をしないケアを実践している。帰宅願望やトイレの近い利用者の前兆サインを素早くキャッチし、利用者の気がすむまで散歩に付き添い、気分転換となるように対応している。また、無断外出に備えて町会長や地域住民に協力を働きかけているが、これまで事例はなく過ごしている。また、症状が進行し、やむを得ず身体拘束を行う場合についての文書を整備し、家族にも説明して同意を得ている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について研修、勉強会等を行い、注意し、防止を心がけている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>内部、外部研修に参加し、理解を深める取り組みを行う。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明チェックリストを作成し、相互にチェックして理解を深めるようにしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族とのコミュニケーションが図られやすい環境を整え、事業所内に苦情受付窓口、外部受付窓口を設置し、家族が意見の申し出をしやすい環境作りをしている。</p>	<p>面会時等を利用して家族から意見や要望を聞いている他、利用者については日々の会話にて把握に努め、普段話さない利用者の要望等についても、メモを活用する等して把握をしている。また、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況、金銭管理等の報告はホーム便りや電話、金銭出納帳等を活用して行っている他、ホーム内外の苦情受付窓口は重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見提案を求め、より良い環境作り、人間関係作りをしている。	職員会議や朝の申し送り等で職員の意見を聞くように努めており、利用者のベッドの配置の変更等、職員の提案をサービス提供に活かしている。また、職員一人ひとりの誕生日に食事会を設ける等、日頃の意見や要望を聞き出す機会を設けており、管理者は積極的に職員とコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見提案を求め、より良い環境作りをするように心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には全職員が参加出来る体制作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行事参加、見学、研修等を通じて意見交換をしつつ、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度も事前訪問し、本人の意向の聞き取りを行い、安心して暮らせるよう支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問して家族とよく話し合い、情報を提供していただき、それに伴い、一番望んでいる事を提示できるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、必要な支援サービスが受けられるよう関係機関との連携を図っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩、また、家族の一員として、相互の信頼関係を結ぶよう努力し、支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、入居者の情報提供を通じて意思疎通を図っており、職員間での情報共有も進めて、お互いに何でも言い合える関係作りをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を基に、馴染みの人や場所等に積極的に足を運んでもらうように声かけをし、また、来苑していただくような環境作りに努めている。	利用者の同級生や近所に住んでいた方、知人等が面会に訪ねて来たことを歓迎している他、電話の取り次ぎや手紙を書く際の支援も行っている。また、美術館や道の駅等、馴染みの場所への外出支援の他、散歩や地域行事等で知り合った住民との関係を継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々の性格を職員が把握し、コミュニケーションを図りやすい雰囲気作りを働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族とは普段からコミュニケーションを図り、サービス終了後も電話連絡、訪問等し、相談に応じている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との対話を密にし、思いや希望等の把握をできるように対応している。	利用者の思いを日々確認し、「絵を描きたい」、「庭を散歩したい」、「畑仕事をしたい」等の要望が出されており、利用者の思いを受け止めて支援している。意思疎通が困難な利用者には寄り添い、どうしたいのかを観察して思いを汲み取り、支援している。また、入居時には利用者の趣味や愛読書等を家族や関係者から情報収集し、日々の生活に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係機関からの情報を基に、本人と対話しながら確認し、全職員へプライバシー保護の周知徹底を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動パターンを把握し、心身状況の観察をしながら、変化に応じて適切な助言、支援をすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をより理解するために、コミュニケーション等で知り得た小さな情報・変化等をケアプランに反映させ、より良い、快適な生活を送れるように作成している。	日々の関わりを通して利用者の思いや意向を汲み取り、家族の面会時等にも意向や情報を収集している他、職員の気づきや意見も反映させて利用者本位の個別の介護計画を作成している。また、計画は6か月毎の見直しや状態変化に合わせ随時見直しを行っている。見直しの際には本人や家族から再アセスメントを行って他、担当者会議に出席してもらうように働きかけ、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、身体、精神、病気等により、個々に違う様式になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、町会会員として、様々な情報交換や交流を通し、資源を活用し、楽しめるように対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に、会社の特性を活かした医療機関、関係機関との連携を大切に、急変時にも家族への素早い対応に努めている。	本人や家族の希望を聞き、ホームの協力医や以前からのかかりつけ医により随時適切な医療を受けられるように支援している。また、他科受診も含め、急変時以外は家族同行受診となっており、受診結果は利用者、家族、医療関係者と共有しながら支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを基に状況観察を行い、異常の早期発見に努め、医療関係者と相談が出来る体制作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者やその家族、関係者と定期的、また、状況に応じて随時話し合いをし、早期退院に向けて関係者との情報交換、相談を密にしている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対応していない。	重度化が進み、医療を必要とした場合の対応は行っていないことを運営規程・重要事項説明書に盛り込んでいる。また、入居時に、緊急時や重度化・終末期においては、必要に応じて主治医や協力医療機関と相談の上、入院先や転居先と連絡をとり、支援することを利用者や家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時対応マニュアルを作成し、対応している。グループホーム内にもAEDを設置してる。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内に非常食や水分を備蓄し、町内の住民が自防捜の協力隊員となり、町民一帯となる協力体制がある。	防災マニュアルに基づき、夜間想定も含めて年2回の防災訓練を行っており、地域住民・消防団員の協力を得ながら実施している。町内会では「自防捜」という地域住民の安全見守り隊を結成しており、協力体制を築いている。また、防災設備の点検を6か月毎に業者に依頼している他、災害発生時に備え、賞味期限を確認の上、食糧や飲料水等の備蓄品を玄関近くの物品庫に用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に対話を持ちながら、個々の人格尊重を行えるよう、お互いに対応している。	管理者は、人生の先輩としての利用者への対応方法について、日頃から職員に指導しており、声が大きかったり、語尾がきつい場合等はその都度改善し、尊厳あるケアに努めている。また、ホームの顧問弁護士を通じて、守秘義務や個人情報に関する勉強会を行い、日々のケアにおいても配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞きながら、発言、意思表示できる環境作りを心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその人らしく、自由に過ごせる時間等を考慮し、快適な生活が送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容院があり、自発的に出かけられる。また、職員や家族と一緒に買い物に出かける支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者や家族から、本人の好みを聞いて把握し、献立に取り入れている。一人ひとりの状況に合わせ、食事の準備や片付けを一緒に行い、入居者と一緒を楽しみながら食事をいただいている。	献立は、職員が利用者の嗜好や食事形態を考慮して作成しており、2か月に一回、系列会社の栄養士が点検している。また、利用者の出来る能力を活かして一緒に作業を行い、職員も同じテーブルで食事をとり、箸の動きが止まってしまう方のサポートや見守りをしながら、楽しく食事が出来るように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に水分、食事量を記録し、全職員が把握出来るようになっており、それに基づき声かけをし、栄養、水分量のコントロールが出来ている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・入床時や毎食後、声かけや見守りをし、うがい、ハミガキ、マウスウォッシュを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時・随時の排泄支援、誘導や声かけ、見守りの徹底をしている。排泄時の清潔保持の支援の他、状況に応じて病院への受診にも対応している。	排泄チェック表を使用しながら一人ひとりの習慣を把握しており、利用者の排泄サインをキャッチし、時間毎の声掛けや誘導等を行っている。排泄の自立を目指して職員会議等で見直しを検討し、オムツの取れた方や尿取り小パットに改善された方もいる。また、介助時には利用者の羞恥心に配慮し、他の利用者に気づかれないように小声での誘導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士に定期的に献立チェックをしてもらい、入居者の運動、水分、食事量、排便リズムをチェックし、スムーズな排便を促す適切な支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員は入居者の入浴習慣を把握しており、意向に合わせた入浴支援をしている。また、当ホームは天然温泉で、いつでも入浴可能である。	週2回の入浴日としているが、外出等で不在の際はホームの天然温泉や他のユニットの入浴日に入れるように支援している。羞恥心に配慮した支援に努め、入浴を拒否する場合には介助者の変更や足浴にする等、利用者の意向を尊重した柔軟な対応をしている。また、長湯や常同行動等の利用者にはさりげなく声掛けし、楽しく入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力を考慮し、適度な運動後に休息をとるように支援し、不眠時等には対話や一緒に行動する等し、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導管理が徹底的されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や力量を把握し、ボウリング、ルームランナー、マッサージ、散歩等、それぞれの楽しみ毎に支援し、参加を促すような働きかけをしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や買い物等の日常的な外出の機会を設けている他、観光、町会行事への参加等を行っている。外出の際は移動距離や身体状況に配慮し、その日にあった支援をしている。</p>	<p>花祭りやねぶた祭り等の年間イベント、ホーム行事の遠足の他、散歩や買い物等、利用者の希望に応じて出来るだけ外出できるように支援しており、利用者の気分転換を図っている。また、その日の外出人数や車いす利用者にも対応できるように、移動方法や移動距離を考慮しており、遠足時には家族の参加も得ている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>週1回の割合で移動パン屋が来苑し、好みのパンを本人に購入していただくように見守り、声がけをしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望により電話や手紙の対応をすぐに来る環境作りをしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節毎に作成した入居者自身の作品を居室に飾っている他、湿度・温度を確認し、居心地の良い温度調整を心がけている。</p>	<p>利用者同士の相性や個々の性格を把握した上で、利用者が安心してゆったり過ごせるように、テーブルやソファを分散して配置している。テレビの音量や職員の作業音は適正を保ち、丁度良い明るさとなるように日射しには2重カーテンで調節している。また、毎日、定期的に室内の温湿度を記録している他、サンタクロースやツリーを飾り、季節感を出しており、和めるような空間作りを行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアの中にも1人で過ごせる空間を作ったり、中央フロアに食卓テーブルを配置する等して、会話をしやすいように工夫している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者愛用のベットやソファ、家具等を持ちこんでもらい、生活できるように取り組んでいる。</p>	<p>馴染みのダンスやソファ、鏡台、家族の写真等が持ち込まれ、その人が元気に活躍してきた時代とつながる、温もりのある居室作りがなされている。また、持ち込みの少ない利用者についても、自分らしく、心地よく過ごしてもらえるように、職員も一緒になり、利用者の好みの居室となるよう努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内に、利用者がわかりやすい標識やぬいぐるみ等を配置している。</p>	/	/